

BRAND  
PROJECT  
DESIGN

# 中小企業の知的財産活用 オンラインワークショップの進め方





## 中小企業の知的財産活用 オンラインワークショップの進め方

### I N D E X

マニュアルの使い方	1
知的財産について	2
進め方	3
プランニングシート	4
知的財産発掘・棚卸シート	6
実行しましょう!	10
参加企業のコメント	12



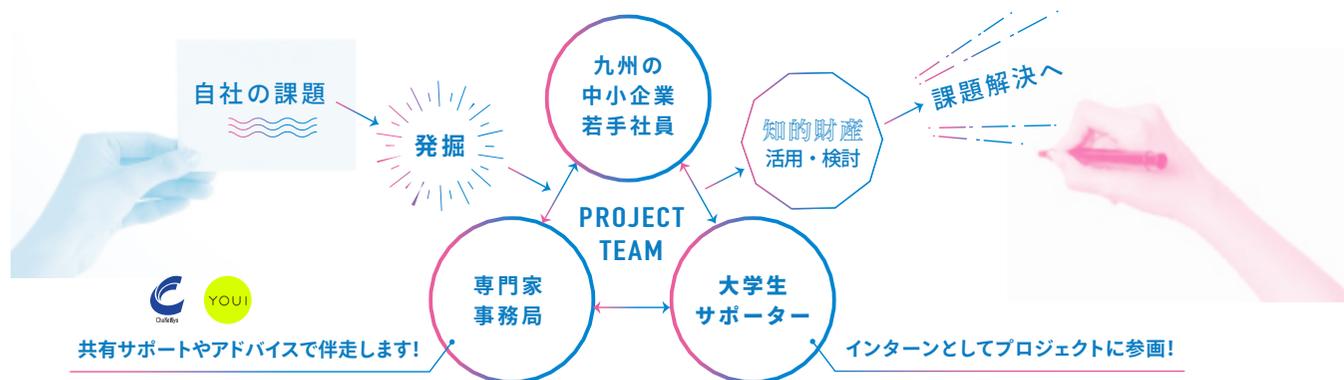


## ○ マニュアルの目的

本マニュアルは、九州地域の中小企業が、自社の知的財産活用を軸に新たな価値をデザインし実現するためのオンラインワークショップ「BRAND PROJECT DESIGN」のプログラム内容をまとめ、様々な企業等において再現することを目的として作成しました。

### BRAND PROJECT DESIGNとは、

2020年9月から2021年2月に開催した九州地域の中小企業が10社が集まり、それぞれの企業において、社員が「自社の課題」を自分事として捉え、自社の知的財産活用を軸に課題解決をはかり新たな価値をデザインしそれを実現していくためのオンラインワークショップです。各企業から有志2名と学生インターンシップを迎え、半年間、自社の知的財産について考え知的財産戦略をたて、実践までを行いました。



## ○ ワークショップの取り組み方

本ワークショップは、顔を見て対話ができる遠隔会議システム (Zoomなど) と、オンライン共同編集ツール (Googleスライドなど) を活用して実施しました。オンラインツールを活用することで、効率的な会議の設定や運営、情報共有が可能となります。オンラインとオフラインを状況に応じて使い分けをして会議を進めることが重要です。

本マニュアルは、中小企業が知的財産戦略をたて実践していく際の、基本的な考え方や進め方などをまとめています。

本マニュアルを活用し、社員の方がファシリテーターとなってプロジェクトを進めていくことを想定して作成しています。新しいプロジェクトの検討であったり、経営計画や戦略を立てる時であったり、様々な場面においてご活用ください。



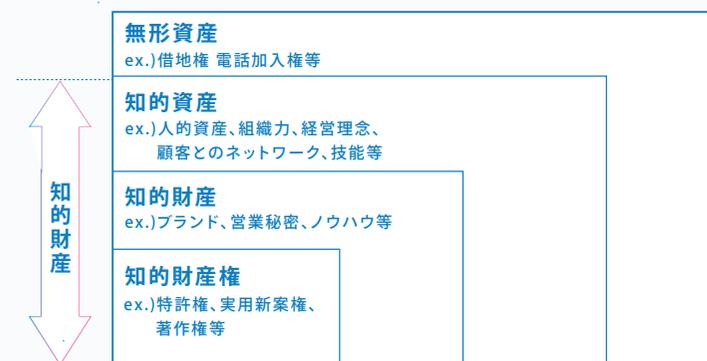
## ○知的財産とは

知的財産とは、発明、考案、植物の新品種、意匠、著作物その他人間の創造的活動により生み出されるもの、商標、商号その他事業活動に用いられる商品又は役務を表示するもの、営業秘密その他の事業活動に有用な技術上又は営業上の情報をいいます。

\*本書では、企業理念、ビジネスモデル、組織文化・組織風土等を含むものと解しています。

### [知的財産の概念図]

知的財産権、知的財産、知的資産、無形資産の分類イメージ図(経済産業省HPより)



注)上記の無形資産は、貸借対照表上に計上される無形固定資産と同義ではなく、企業が保有する形の無い経営資源全てと捉えている。

## ○企業が知的財産に取り組む意義

自社で特許権や意匠権、商標権などの知的財産権を取得することで、意に反する競合品の販売差し止めを申し立てられるほか、損害賠償の請求をすることにより競合他社の動向をけん制する、参入障壁を作るなど、市場における自社の競争優位性を高めることができます。例えば自社製品の模倣品が出てきた場合、当該権利を他社に侵害されたということで、侵害者に対して侵害品の製造販売の差し止めや損害賠償請求など、有効な対策を講じることが可能です。

知的財産を、直接的な収益の確保などマネタイズに使うという事も可能です。知的財産権を元にライセンス収入を得る、知的財産権を売却をして収入を得る、など。場合によっては、社内のマニュアルをライセンス化したり売却をしたりするなど、収益を得ることができる場合もあります。

社内外からのレピュテーション(評価・評判)を高めるという意味でも、知的財産は役立つことがあります。対外的には、認知の獲得をする、信頼の獲得をするなど。対内的には、会社の中にブランドの存在を認識することで従業員の自信を確保したり、意欲を高めるなどのインナーブランディングに資する場合があります。人材の獲得・育成にも役立つことができる、というのが知的財産の特徴です。



### プランニングシート作成

#### 大まかな方向性を定める

- これまでの事業を振り返る  
自社が持つ資源と提供している価値を考える。
- これからの事業を構想する  
自社の課題、解決方法を考える。

### 知的財産発掘・棚卸シート作成

#### 知的財産を深く掘り下げる

- 現在の自社の知的財産  
組織風土や人材なども含めた自社の知的財産を深く掘り下げ、自社の強みや独自性、活用できる知的財産などを考える。
- 未来の自社の知的財産  
新規事業を行った際に起こる未来の姿を書き出し、知的財産活用戦略を立てる。

### 実践

### 実践の積み重ね

#### 実践はトライ&エラーの繰り返し!

どんなに小さなアクションでも一つのプロジェクトを成功させるには大切な一手。プロトタイプ等を活用してブラッシュアップをしていきましょう。

時には、知的財産発掘・棚卸シートを見直してみたり、書き直してみたりと、繰り返すことも大切です。

## POINT

### チームビルディング

- └ 社内で理解を得る・上長の理解を得る。  
組織を知って、プロジェクトに必要なメンバーを集める。  
目標設定と共通認識、チームにはみんなに役割がある!役割分担をしよう。

### 会議に望む姿勢

- └ ファシリテーター役、メモ役など役割を決める。  
対話のルール(否定しない、ひらめきを歓迎する、みんなが発言できる時間配分等)を決める。





- プランニングシートを作成して、今後どのようなことを行うのか、軸になるプランを立ててみましょう。  
内容は、大まかで構いません。まずは、書き出して言語化してみましょう。  
「SHEET 2 これまでの事業を振り返る」では、自社が持つ資源をどのように活用して、誰に、どのような価値を提供しているのかを書き出して、自社理解を深めましょう。

SHEET 1

自分たちが目指す姿を言語化してみましょう

ビジョン

---

開会宣言

わたしたちはどうしても成功させたい新規事業があります。

それは  です。

なぜなら、わたしたちは  という集団であり続けたいから。

新規事業を成功させるために、これまで行ってきた事業を振り返り、

これからどう戦っていくか構想していきます。

SHEET 2

自社が持っている資源を考えてみましょう。

プランニングシート

最初は、深く考えずに付箋などを使ってとにかくたくさん出してみましょう。

プランニングシート

これまでの事業を振り返る

①まず、事業を形にするために揃えた資源を書き出そう

自社で持っていた資源	ヒト	モノ	+	外部調達した資源
	カネ	情報		

今の事業に外部資源はありますか？

②この資源をどのように活用し、価値を生み出したのだろうか

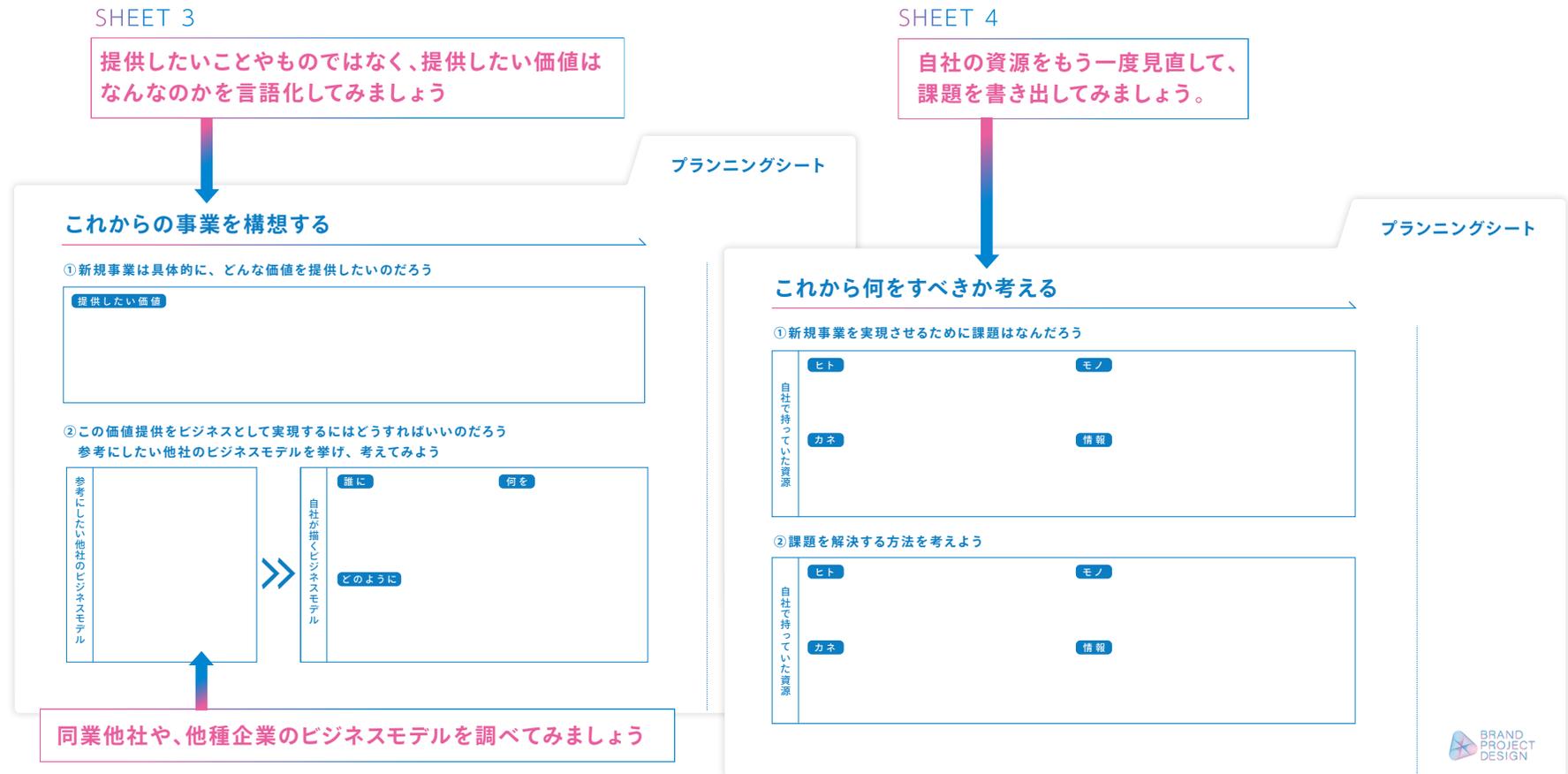
誰に	何を	生み出した価値
どのように		

価値はなんなのかを言語化してみましょう

※このシートは、首相官邸 知的財産戦略本部に掲載されているリデザインコンペティション受賞作品 奨励賞の「新規事業プランニングシート (PDF)」から抜粋しています。



- 「SHEET 3 これからの事業を構想する」、「SHEET 4 これからなにをすべきかを考える」では、新しい事業が、誰に、どのような価値を提供するのか、ビジネスモデルを言語化し、その時に課題となるもの（自社の課題）を捉えて、その解決方法となる事業を考えていきます。

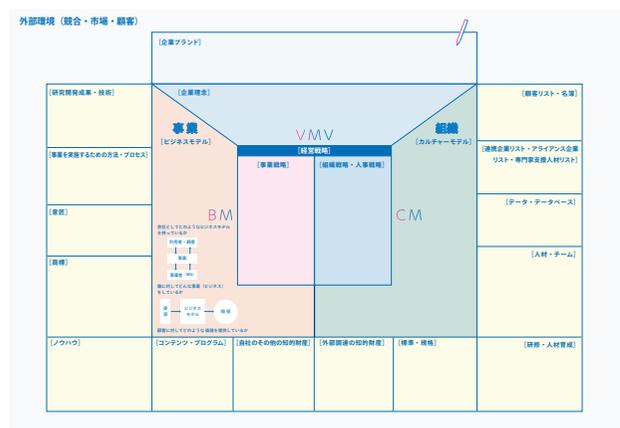




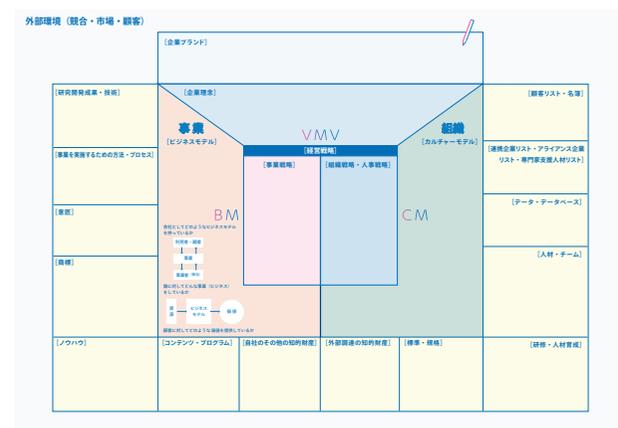
○知的財産発掘・棚卸シートは、「現在」と「未来」に分かれています。

自社の「現在」の知的財産と、プランニングシートを書くことで明らかになった新しい事業によって実現される「未来」の状態として、今後活用・入手していきたい知的財産を考えるためのシートです。

「現在」 → 「未来」



Copyright © 2021 Yukiko Kamijo All Rights Reserved.



Copyright © 2021 Yukiko Kamijo All Rights Reserved.

## POINT

### 知的財産発掘シート・棚卸シートを書く時に意識してほしいこと！

- ..... 大事なのは、新しい事業を通じて、実現したい未来・会社のあり方を意識すること。ついつい、「新しいビジネスモデルをどうしようか」という議論になりがちですが、新しい事業によって実現される会社のあり方を意識して事業を考えましょう。
- ..... 表の右側にある自社の組織戦略や人事戦略、組織文化などのカルチャーモデルがビジネスモデルと同じくらいの大きさで知的財産として存在していることを意識しましょう。
- ..... 1人で深く考えることも大事ですが、いろんな人と対話しながら考えることで共通認識を得ながらプロジェクトを進めていくことにも役立ちます。さらに、一度作ったらそれで終わりではなく、このシートを更新しながら、繰り返し何度も考えることも大事です。



知的財産発掘・棚卸シート

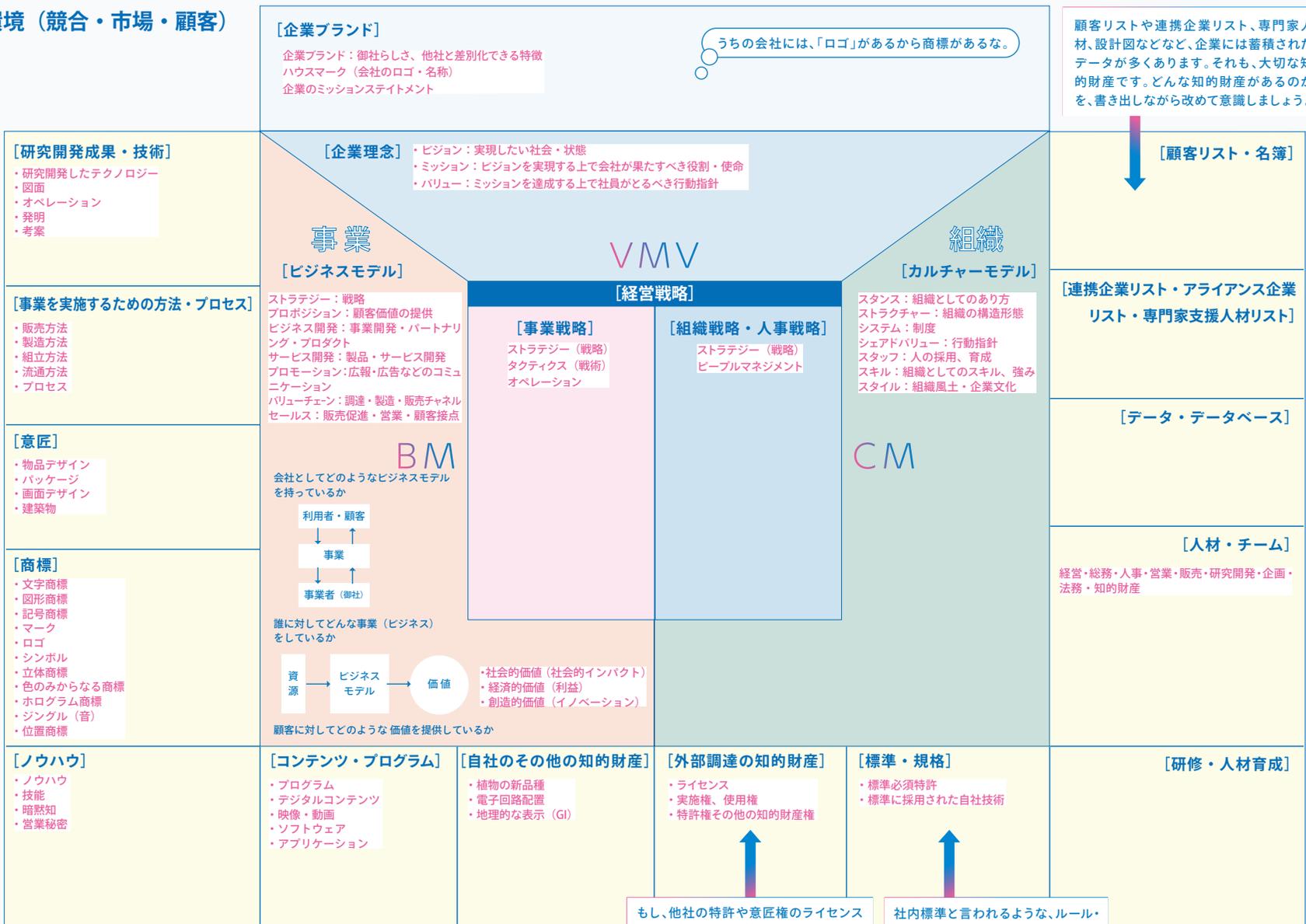
○まずは、「現在」の状態を書き出してみましょう。今のビジョン・ミッション・バリューの再認識をしましょう。

外部環境（競合・市場・顧客）

競合・市場・顧客を考えることも、事業を進めていくために必要な調査です。競合はどこか、市場規模はどれくらいか、拡大・成長機会の可能性はあるか、顧客は誰か、なども考えて外部要因欄に書き出しましょう。

※競合分析には、それらの既存技術・製品との独自の優位性を示すなどの方法があります。

- ・優位性を3～5点選び、箇条書き、もしくは表を用いて示す。
- ・差異を示す2軸をとり、プロットして表現しても良い。

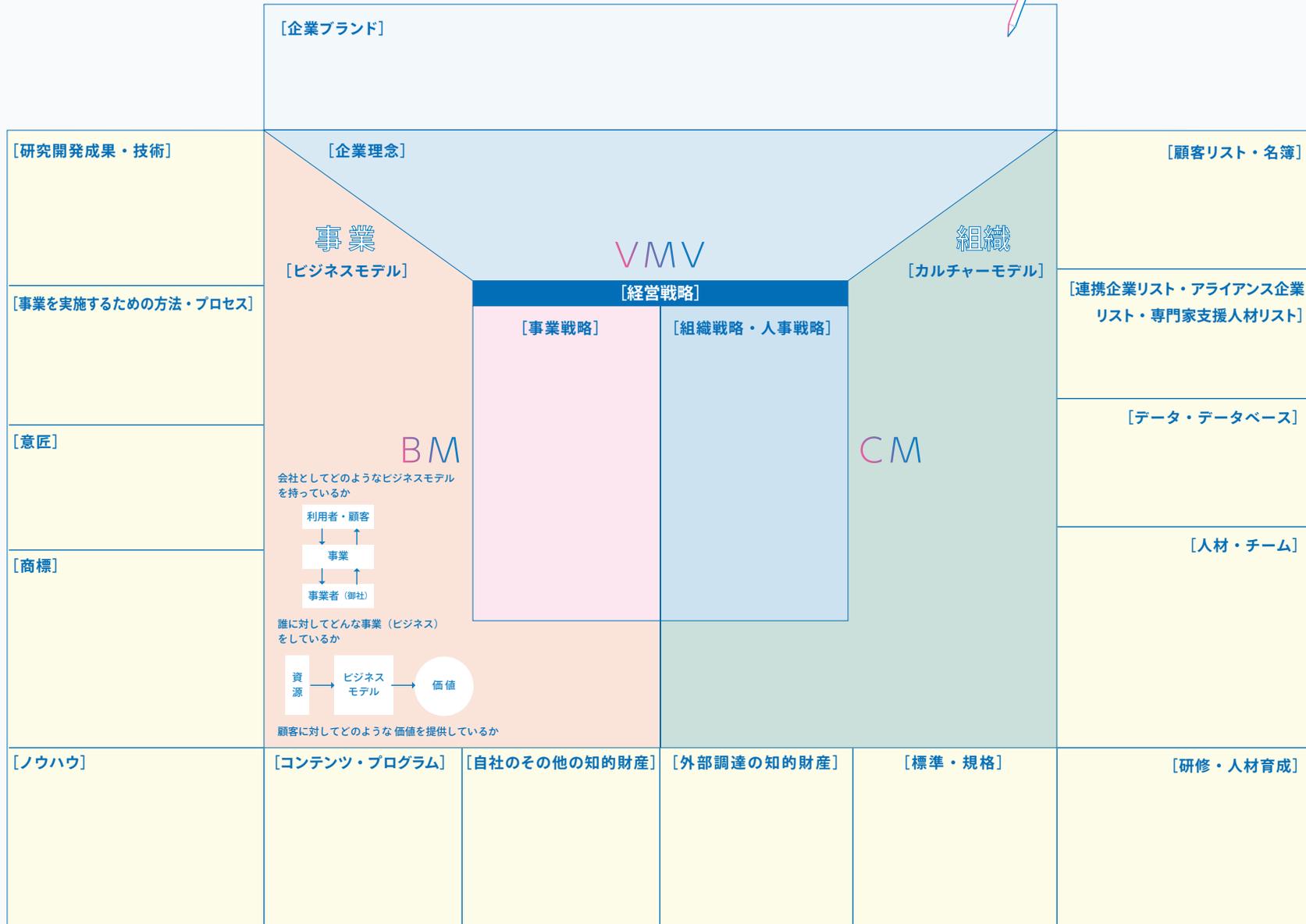


もし、他社の特許や意匠権のライセンス権利を持っている場合は、外部調達の知的財産の欄に記載します。

社内標準と言われるような、ルール・プロセスなども知的財産

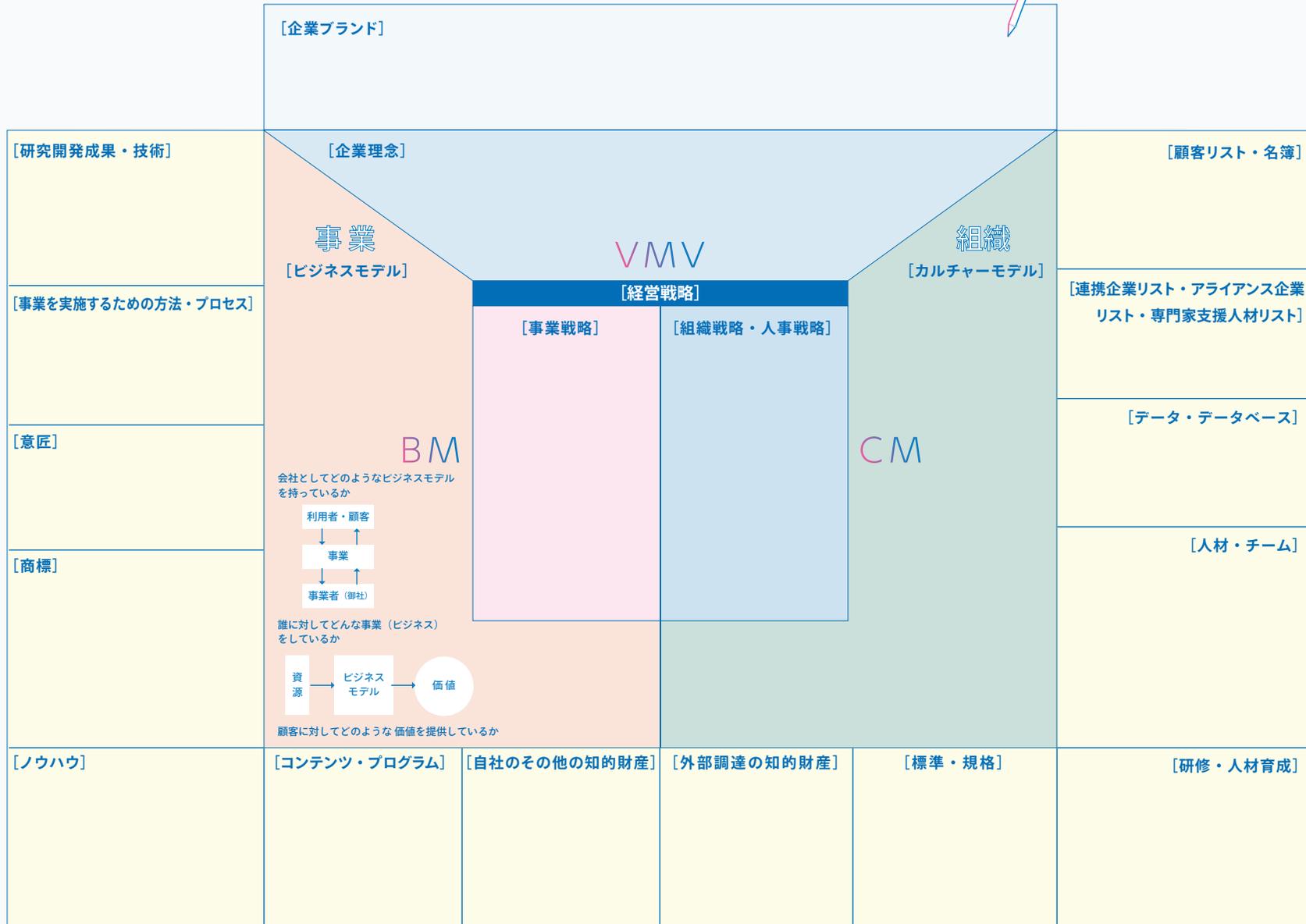
# 知的財産発掘・棚卸シート（現在）

## 外部環境（競合・市場・顧客）



# 知的財産発掘・棚卸シート（将来）

## 外部環境（競合・市場・顧客）





## ○ 知的財産戦略をまとめよう

検討した知的財産戦略を事業計画書にまとめてみましょう。実行のためには、組織内での理解を得ながら進めていくことが必須です。事業計画書には、以下のポイントを記載すると、社内外の関係者との戦略理解が進みます。

事業計画を記載するときのポイント

### 会社が抱えているニーズや課題

この事業が何を課題と捉えて、何を達成・解決しようとしているのかを明確にしましょう

### 解決策

施策の概要が課題を解決するものになっているか。自社ならではの強みや知的財産を活用できているか。

### チームメンバー

実行のための組織図を描いてみましょう。担当者の役割分担を明確に記載したり、チームメンバーがどのような経験を持っているかを記載してみましょう。適材適所の説得力のある最強のチームを作りましょう。

### 市場・顧客

市場規模や規模数を示すデータ（市場規模、患者数、想定顧客数等）、顧客像、成長機会の可能性など、説得力のある数字や分析を記載しましょう。

### 競合

競合となる会社・商品・サービスを調査し分析しましょう。自社と競合を比較し、既存技術・製品との独自の優位性を考えてみましょう。他社との差別化の表現は、差異を示す2軸をとり、プロットして表現するなどの方法があります。

### ロードマップ

戦略立案から目標達成までの全体スケジュールを説明しましょう。今後の事業全体を俯瞰し、アクションがとりやすくなります。

### ビジネスビジョン

自分自身わくわくする、聞いた人がはっきりとイメージを持ち、共感できるよう、簡潔明瞭かつ具体的に記載しましょう。

聞き手が、「この戦略に明確な意義があり、こんな素晴らしい事業はぜひ応援したい!」と思えるように書くには、まず自分が心からそう思って書くことが大事です。



## ○ 実行し続けよう

### クイック&ダーティとトライ&エラー

どんなに小さなアクションでも一つのプロジェクトを成功させるには大切なアクションです。

VUCAの時代は常に日々を変えていきます。スピードを重視し、足りない点はその都度改善、試行錯誤を繰り返しながら進めていきましょう。

\*VUCA(ブーカ)とは、Volatility(変動性・不安定さ)、Uncertainty(不確実性・不確定さ)、Complexity(複雑性)、Ambiguity(曖昧性・不明確さ)という4つのキーワードの頭文字から取った言葉

## ○ 確認しよう

### チーム内でプロジェクトマネージャーを決めて全体の進行管理と確認をして進めましょう。

社内でプロジェクトの進行状況を共有する時間を設けることも大切です。

その際に、うまくいっていること、そうではないことを見える化して、改善していきましょう。

今の戦略が、知的財産戦略として有効かどうかを何度も振り返って確認しましょう。

## ○ 仲間を増やそう

### 足りない資源があれば、仲間を増やすなど、チームメンバーの協力を得て補っていきましょう。

組織の人財は大切な知的財産です。

もっと知的財産や特許など詳しい情報が知りたい!相談したい!という場合は、九州知的財産活用推進協議会に様々な支援情報・最新のセミナー情報が掲載されています。ぜひご覧いただき、自社の知的財産の価値を高め、活用していきましょう!

[九州知的財産活用推進協議会](#) 





### 株式会社オーレックさま

(農業関連機器製造販売)

当社は創業73年目の農業機械メーカーであり「世の中に役立つものを誰よりも先に創る」の創業精神のもと、数々の業界初製品を世の中に届けてきた。プログラムに参加する前までは、当社の「知財」は業界初製品で取得してきた特許、実用新案という印象であった。しかし、プログラムに参加し学生や他社の方々と「知財」についてを体系的、実践的に学ぶ過程で、会社全体を多角的に見た結果、社内にはまだ活用できていない「知財」となり得るリソースの存在に気付くことが出来た。今回発掘できた「知財」を活用して事業化する事で、当社が目指す「有機農産物普及業」への大きな一歩となり、強いては持続可能な社会づくりへ寄与できると期待している。

### 株式会社GlobalBさま

(システム開発、業務改善アプリ、Web・動画制作など)

弊社は、お客様の業務効率化や販売促進をITの力を使って解決する企業です。ITの世界では、余程革新的な技術や、IoT機器等の現物がない限り、プログラムでは特許にならず、知財活用は難しいと諦めていました。しかし今回、BPDに参加して知財活用を学んだことで、知財は特許だけではなく、商標や意匠もあり、会社のノウハウやデザイン、ネーミングの工夫でも活用出来ることが分かりました。また、この商標や意匠を活用することで、お客様に「使い方」や「機能」を簡単に訴求出来る、「使いやすさ」が強調されることで商品価値が向上するなど、商品に「武器」を与え得ることを知りました。今後も知財を活用し、攻める商品づくりに役立てていきます!

### 株式会社レイメイ藤井さま

(紙・文具・事務機の総合商社)

今回ブランドプロジェクトデザインに参加し、自社の知的財産について考える良いきっかけとなりました。

初めは自社の知的財産が何かもよくわからない状況から参加しましたが、学生の方、共に参加した企業の方、講師の方々の意見を聞くことで様々な発見に繋がりました。中にいると当たり前だと思っているものが、外から見ると立派な知財であり、そこに気づくことができただけでも参加してよかったと感じています。

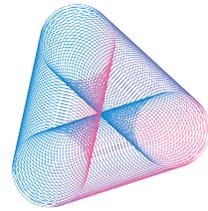
また、学生の方と一緒にチームを組んだり、普段の業務だと関わることがない企業の方の意見や戦略を聞いて大変新鮮で多くの学びがありました。この半年間の活動を今後の仕事でも活かしていきたいと思います。

### スタンダードフォース株式会社(株式会社LTU)さま

(建設業・システム開発)

今回のプログラムに参加することにより、知財戦略というものに対して単なる権利の保護という狭い範囲ではなく、企業価値の防衛や販売促進という面もあるという広い範囲で考えることができるようになり、たいへん勉強になりました。

学生といっしょにということでプログラムを組むのは現在のトレンドにはあっているかもしれませんが、また弊社のプログラムに参加してくれた学生さんはよく頑張ってくれたとは思いますが、より工夫をしなければよい結果は得られないと感じています。事前にその事業や業態について深く知る機会をつくらなければ、せっかくのアイディアも思い付きの域を出ることができず、企業の助けにはなかなかならないなと感じました。



# BRAND PROJECT DESIGN

## — 参加企業 —

はたらく家具をつくる

**ADAL**  
ADVISER FOR AMENITY LIFE

**OREC**

TOTAL SAFETY SYSTEM  
株式会社 **アサヒ-アセス**

 Global Gates

Raymay  
Fuji **RF**

 **GlobalB**

  
*Standard Force*

**HUMAN GROUP**



**GA**

©2021 一般社団法人福岡中小企業経営者協会 製作：株式会社YOUI



Chufekkyo



※本マニュアルは、九州経済産業局令和2年度中小企業知的財産活動支援事業費補助金(中小企業知的財産支援事業)にて作成しています。  
※本書の無断複製(コピー・スキャン・デジタル化等)は著作権法で認められた場合を除き、禁じられています。